



「未来志向」「ONE TEAM」で、JR産業に「安心」を取り戻そう！

2022年 2月15日

日本鉄道労働組合連合会

JRグループ労組連絡会「2022春闘総決起集会」

JR産業の回復と発展にむけ、雇用と生活の維持を第一義に 賃金・労働条件を「働きの価値に見合った水準」へ引き上げる!!

JRグループ労組連絡会は2月10日、大阪市「TKPガーデンシティ大阪リバーサイドホテル」をメイン会場に、東京、名古屋、高松、博多のサテライト会場をオンライン会議システムで繋ぎ、2022春闘総決起集会を開催した。今次闘争では、すべての仲間の「雇用と生活の維持」を第一義としつつも、賃金・労働条件を「働きの価値に見合った水準」へと引き上げるべく、1,000円を目安とした純ベア統一要求を含む賃上げ要求を行うことを意思統一、加盟全単組が「未来志向」「ONE TEAM」で今次闘争を闘い抜く決意を固めあった。

冒頭、主催者を代表して挨拶に立った奥村敬弥代表幹事（JR東海連合・東海交通事業労組委員長）は、「今や、グループ労組連絡会は3万名を超える組織となった。昨年の春闘や期末手当の交渉等では、多くの単組でJR主要単組を上回る妥結結果を得た。従来大手追随・準拠の構図から脱却しつつある。今次闘争も厳しい取り組みとなるが、連合が掲げる『未来づくり春闘』のもと、中長期的視点で『人材への投資』を追求していく。グループ労組が先頭に立って2022春闘を牽引し、大きなうねりを生み出せるよう、92単組一丸となった『ONE TEAM』の統一闘争を展開しよう」と熱く訴えた。



奥村代表幹事（左）、荻山会長（右）



各分科会代表による決意表明

長い需要回復の底支え、働き方の変化を見据えたJR産業への支援など適時適切に求めていく」と述べ、さらに「組合員に不安が広がる厳しい時こそ、労働組合の真価が問われる。賃金や働き方改革に期待と関心を持って注目している組合員と向き合い、全員参加の2022春闘を作り上げていこう！」と激を飛ばした。

続いて、幹事会がJR連合第34回中央委員会で決定した闘争方針を提起。各分科会代表者からの決意表明では、各会場から企業を取り巻く厳しい経営環境が述べられ、そうした中でも労働諸条件の改善に精力的に取り組む決意が示された。その後、集会アピールを全体で確認し、奥村代表幹事の団結がんばろうで氣勢を上げ、グループ労組の2022春季生活闘争が本格的にスタートした。



大阪会場での団結がんばろう